

第5学年 外国語科学習指導案

日 時：平成31年2月12日

場 所：5年2組教室

学 級：5年2組 31名

1 単元名

「Unit 5 She can run fast. He can jump high.」

2 児童観

本学級の児童は、4年生の時から外国語活動を始め、今年度で英語に親しむのは2年目となる。新しい表現や単語を学習することに不安を抱く児童は多いが、スモールステップで学習したり、ペアトークやグループワークなどを通して学習を進めたりすることで、自信をもって活動できるよう取り組んできた。

☆外国語科アンケート（11月調査）の結果より

各設問の肯定的意見（あてはまる・少しあてはまる）の割合

設問	クラス	学年
2. 英語を話せるようになりたい	90%	86%
4. 英語の時間・活動でならった英語を話すことができる	80%	58%
11. 英語の時間・活動で、先生や友達と会話することは楽しい	96%	71%
18. 授業で発言や発表を進んでできる	63%	66%

「2. 英語を話せるようになりたい」と感じているクラスの児童は90%と高い割合である。この結果は、「11. 英語の時間・活動で、先生や友達と会話することは楽しい」と感じているクラスの児童が96%もいるということと関連していると考ええる。6年生や中学校への進学、長期的な視点では社会の国際化が進んでいくことを鑑みて、この意欲を持続させていきたい。そのために、知的な楽しさだけでなく、ゲーム的な楽しさも味わわせることで、「コミュニケーションは楽しいもの」という感覚を育てたい。

また、「4. 英語の時間・活動でならった英語をはなすことができる」児童はクラスでは80%だが、学年では58%と低い。また、「18. 授業で発言や発表を進んでできる」児童もクラスでは63%、学年では66%と低い。これらの結果より、学習していることが「できる」・「分かる」と児童自身が自覚すれば、改善できると考える。そのために、スモールステップで活動を展開したり、会話量を増やして自信をつけたりしていきたい。

3 研究主題にせまるために

研究主題「対話を通して、主体的に学習する子供を育てる」にせまるために、高学年では、次のように工夫をした。

① 「1単位時間の授業展開」を確立する

児童が学習の見通しをもち、安心して学習に取り組むことができるよう、「挨拶→チャンツ・会話練習→復習→本時のめあて→新出単語・表現→アクティビティ→振り返り」と1時間の授業展開を同じようにした。そのことで、児童がより主体的に学習に取り組むことができると考えた。

②教科横断的な学習内容を取り入れる

学習内容に必然性をもたせるために、学級活動での友達をもっと知るための活動と組み合わせた内容を取り扱うことにした。

③ワークシートを児童が主体的に考えられるよう工夫する

ワークシートにあえて空欄を設け、児童が自ら話す内容を考えられるようにした。そのようにすることで、相手とコミュニケーションを取りながら、児童が主体的に学習を進められると考えた。

4 単元の指導目標

◎自分や第三者について、できることやできないことを聞いたり言ったりすることができる。

(知識及び技能)

・自分や第三者について、できることやできないことを、気持ちを込めて伝え合う。

(思考力、判断力、表現力)

・相手意識をもち、自分や第三者についてできることやできないことなどを紹介し合おうとする。

(学びに向かう力、人間性等)

5 言語材料

(1) 表現(児童の発話)

・What can you do?/I can～.

・Can you play～?/I can play～.

・She(He) can～.

・When is your birthday?/My birthday is～.

・What ○○ do you like?/I like～.

(2) 語彙(児童が使う語彙)

・運動 ・趣味 ・色 ・食べ物 ・誕生日

6 該当する新学習指導要領における領域別目標

聞くこと	イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。
話すこと (やり取り)	ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
書くこと	ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を気にしながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。

7 単元の評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう人間性等
外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、簡単な語句や表現などの外国語を聞いたり言ったりしている。	簡単な語句や表現を使って、自分のことや第三者のことについて、友達に質問したり答えたりして表現している。	外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを知り、相手意識をもってコミュニケーションを図ろうとしている。

8 前回の改善策を受けて

(1) 視覚支援

タイムスケジュールを掲示・・・授業の流れを確認できることで、児童に見通しをもたせる。

(2) 教科横断的な単元計画の作成

学級活動との教科横断的な単元計画・・・学級活動で、友達のことをもっと知ることをねらいとし、その一環として「プロフィール帳」を作らせる。その学習活動の中で、英語を用いて友達と交流させる。

(3) どのような学習形態にするか

「対面移動方式」・・・普段あまり交流のない友達ともかかわらせることをねらいとし、児童の場所を自動的にずらすようにした。

「プロフィール帳の工夫」・・・児童を主体的に活動させることをねらいとし、プロフィール帳に「自由に書けるスペース」をつくる。

(4) 扱う表現の精選

児童の実態を考慮し、「重点とする表現」として教師が精選する。重点とする表現を中心に、児童に支援をする。

9 単元指導計画（6時間）

時	目標（◆）と主な活動（【 】、○）	◎評価〈方法〉
準備活動	◆学習課題に向け、見通しをもつ。 「知っているつもり！？クラスの友達のこと！クラスの友達について英語を使って調べ、さらにクラスの絆を深めよう」	
1	◆動作を表す語や「できる」「できない」という表現が分かる。 【あいさつ】【ウォームアップ】 ○単語復習（月） ○会話練習（When is your birthday?/My birthday is～.） 【めあて】【新出表現】 ○新出単語（動作） ○新出ダイアログ（I can～.I can't～.Can you～?） 【アクティビティ】 ○「キーワードゲーム」 ○「ポインティングゲーム」 【振り返り】【あいさつ】	◎自分ができること、できないことを表す表現を聞いたり言ったりしている。 〈行動観察、リフレクションカード分析〉
2	◆動作を表す語や「できる」「できない」という表現を聞いたり言ったりできる。 【あいさつ】【ウォームアップ】 ○単語復習（動作） ○会話練習（I can～.I can't～.Can you～?） 【Let's listen】 ○音声を聞いて、どの動物かを考え、番号を記入する。 ○第三者のできることやできないことを聞き取る。 （She/He can～.） 【アクティビティ】 ○「キーフレーズゲーム」○「インタビューゲーム」 【振り返り】【あいさつ】	◎できる、できないという表現を聞いて、番号を記入している。 〈行動観察・記述分析・ リフレクションカード分析〉 ◎自分や相手ができることを聞いたり言ったりしている。 〈行動観察、リフレクションカード分析〉
3	◆できることやできないことを含む短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取ったり、できるかどうかを尋ねたり答えたりすることができる。 【あいさつ】【ウォームアップ】 ○単語復習（月） ○会話練習（When is your birthday?/My birthday is～.） 【めあて】【新出表現】 ○新出単語（好きなスポーツや趣味） ○新出ダイアログ（What can you do?/I can ～.） 【アクティビティ】 ○「インタビューゲーム」 【振り返り】【あいさつ】	◎できるかどうかを尋ねたり答えたりしている。〈行動観察・記述分析・ リフレクションカード分析〉 ◎できることやできないことを含む短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取り、番号を記入している。〈発表観察・記述分析・ リフレクションカード分析〉
4 （本時） ・ 5	◆必要な情報を得るために、できるかどうかを尋ねたり答えたりすることができる。 【あいさつ】【ウォームアップ】 ○単語復習（月） ○会話練習（When is your birthday?/What can you do?） 【めあて】【アクティビティ】 ○「インタビューゲーム」 【振り返り】【あいさつ】	◎積極的にコミュニケーションをとっている。〈行動観察・ワークシート分析・ リフレクションカード分析〉
準備活動	◆プロフィール帳を完成させよう！	
6	◆ある人物についてできることやできないことを含めて紹介する。 【あいさつ】【ウォームアップ】 ○単語復習（好きなスポーツや趣味） ○会話練習（She can ～./He can ～.） 【めあて】【アクティビティ】 ○「私は誰でしょう？クイズ」 【振り返り】【あいさつ】	◎自分やある人物について、できることやできないことを、聞き取った情報をもとに伝えている。 〈行動観察、リフレクションカード分析〉

10 本時（全6時間の4時間目）

（1）本時の目標

必要な情報を得るために、できるかどうかを尋ねたり答えたりすることができる。（知識及び技能）

（2）準備物

・フラッシュカード ・プロフィール帳 ・リフレクションカード

（3）表現・語彙

・ What can you do?/I can~, ・ Can you play~/I can play~.
・ When is your birthday?/My birthday is~, ・ What ○○ do you like?/I like~.

（4）本時の展開

時間	○児童の活動 △想定される児童のつまづき	☆指導上の留意点 ◎評価〈方法〉	・準備物
【挨拶】1分	○教師と全員で挨拶をする。		
【ウォームアップ】 4分	○単語の復習をする。 「月」 ○歌を歌う。 ♪「twelve months」	☆「月」で苦手な月は繰り返し発語させる。	・フラッシュカード ・CD
【めあての確認】 1分	○めあてを確認する。 プロフィール帳の完成に向け、友達に英語でインタビューしよう！		
【アクティビティ】 28分	○インタビューゲーム1に取り組む。 「誕生日を聞こう」 ○インタビューゲーム2に取り組む。 「できることを聞こう」 △本時の会話表現が言えない。 △相手の言っている単語や質問の意味が分からない。	☆指導者と児童で例を示す。 ◎必要な情報を得るために、できるかどうかを尋ねたり答えたりしている。 〈行動観察・ワークシート分析〉 ☆学習形態を工夫し、多くの友達と会話させるようにする。 ☆繰り返し練習したり、掲示物やジェスチャーの大切さを再度確認させたりして、自信をもって取り組ませる。 ◎「できること」だけでなく、自分の知りたい情報を既習の英語を使って聞いている。 〈行動観察・ワークシート分析〉	・フラッシュカード ・プロフィール帳
【発表】 5分	○友達の「できること」について、紹介する。	☆インタビューしたことを、紹介させる。 ◎He/Sheを使って、友達の「できること」を紹介している。〈行動観察〉	・プロフィール帳
【振り返り】 5分	○リフレクションカードを記入する。	☆めあてをもう一度確認して振り返りをさせる。	・リフレクションカード
【挨拶】1分	○教師と全員で挨拶をする。		

（5）授業観察の視点

- ①教科横断的な取り組みや学習活動・学習形態は、児童の意欲を高める手段として有効だったか。
- ②ワークシートに空欄を設けたことは、児童が主体的に学習を進める上で有効だったか。